SIASR

(Saitama Infectious Agents Surveillance Report）

Topics Vol. 28 H31 年 3 月 27 日

Vol. 27 は 2019 年第 9 週報に掲載

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況 2018 年

埼玉県で 2018 年に検出され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は 242 株でした（下の表）。

血清型では 17 血清型が検出され、最も多く検出された血清型は例年通り O157:H7 が 135 株（55.8%）で、次いで O26:H11 が 56 株（23.1%）、O121:H19 が 16 株（6.6%）、O157:Hーが 15 株（6.2%）と続きました。

毒素型については、O157:H7 は VT1&2 株が 70 株、VT2 単独産生株が 65 株検出されました。また、O26:H11 は、ほとんどの株が VT1 単独産生株でしたが、2007 年以降に発生の無かった VT2 単独産生株も 3 株検出されました。

分離された 242 株のうち、86 株（35.5%）は患者発生に伴う家族検便や給食従事者等に対する定期検便で非発症者から検出されたものでした。非発症者からの血清型別検出率が最も高かったのは O26:H11 の 44.6%（25 株/56 株）で、次いで O157:H7 が 29.6%（40 株/135 株）、O157:Hーが 26.7%（4 株/15 株）、O121:H19 が 18.8%（3 株/16 株）と続きました。

検出された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数（2018 年）

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7		65	70	135
O157:Hー		2	13	15
O157:HUT			1	1
O26:H11	53	3		56
O111:Hー	3		1	4
O8:HUT		1		1
O15:H18	1			1
O84:Hー	1			1
O91:H51			1	1
O91:Hー	1		1	2
O103:H2	1			1
O113:Hー		1		1
O121:H19		16		16
O145:Hー	2	1		3
O181:H16		1		1
OUT:H2		1		1
OUT:Hー		2		2
	62	93	87	242

検出株の遺伝子型別は、MLVA 法による型別を実施しました。O157:H7 は 135 株が 59 パターンに、O26:H11 は 56 株が 20 パターンに分けられました。集積のみられた MLVA 型は複数ありましたが、その多くには集団感染事例が含まれ、特に保育園や幼児施設などの乳幼児施設における発生が目立ちました。

2018 年はこの 10 年間で検出株数が最も多かったことから、今後もその動向を注視し、感染防止に関する啓発活動を継続する必要があります。